



大西里美 (岡)

	ふ	る	さ	と	大	山	を		
	住	み	よ	い	町	に	:		

この地に嫁いで28年。4人の子どもに恵まれ、この度、末っ子が成人式を迎えました。海あり、山あり、自然に恵まれた環境の中で子育てができ、幸せに思います。

これからのことを考えた時、次世代の子どもたちは、ふるさとに帰って来てくれるのでしょうか？
わが家は梨を栽培しており、子どもたちを連れ、農作業を手伝わせた

こともありますが、梨の後継者については、今のところ疑問符です。次世代の若者たちに、豊かな土地と農業を守り、維持発展して欲しいと思います。
農業だけの問題ではなく、人口を増やすためにも、大山町を魅力のある住みよい町にしていかなければならないと感じています。



入澤由美 (あずみの郷)

	十	人		
十	色			

昨年より10数人の不思議な御縁で会合が始まりました。
近隣地域に住んでいても一度も会ったことがない人もいる現代社会の中、私たちの地域に、ふれあい・集

える場所「ふれあいの郷かあら山」ができあがりました。
核家族、独居高齢者が増え、年齢層に関係ない幅広い世代交流が活性化につながり、地域全体へと広ま

ると楽しいですよ。
うれしい一言、「親しみやすく、ずっとおられる「顔見に来たわ」など、お互いの心の支えにもなり、元氣の出る言葉でした。
十人十色、力を合わせて子どもたちの成長、高齢者の見守り、私たちの日々の成長とみんなでがんばっていきたいと思います。



林原謙二郎 (下前谷)

	助	け	合	い	の		
む	ら	づ	く	り			

高齢化と人口減少が進み、部落の活動や慣例が「今まで通り」にならなくなる。不平不満が出る前に何とかならないか。
委員会を作って話し合いを重ねた結果、管理・環境・福祉・交流の4つ

の部会ができた。40歳から70歳なかばまでのほとんどの男女が部員となつて部落の活動に参画する。多くの住民が少しずつでも知恵と力を出し合おうというものである。
部内の話し合いによって「今まで

通り」は見直される。状況に合わせて改革・廃止されることもあるだろう。新しい活動が生まれるかもしれない。また、部員が情報を共有して引き継げば、恒例活動には経験が生かされる。さらに、住民のつながりが増えて、近所の助け合いや談笑する光景が増えることも期待できる。
「助け合いのむらづくり」をキャッチフレーズにして、今年、4つの部会が一步を踏み出す。

表紙「ジャンク」～だいせんフロント「トーン」
裏表紙「又キ一場から見る香取地区」

発行/大山町議会 編集/議会広報委員会
〒689-3211 鳥取県西伯郡大山町御来屋328
☎ 0859-54-5213 ☎ 0859-54-5214

議会だよりのご感想をお寄せください！

